



Vol. 113

## CONTENTS

- 【コラム】ポスト・コロナ期における情報教育の検討に向けて…白井 詩沙香  
 【解説】情報科教員を目指すにあたって—新学習指導要領実施に向けて準備すべきこと—鹿野 利春  
 【解説】関西支部大会の報告—ジュニア会員の発表を中心に—越智 徹



## COLUMN

### ポスト・コロナ期における 情報教育の検討に向けて



2020年度は世界的な新型コロナウイルス感染症の拡大を受け、急速に教育の情報化が進んだ。オンライン教育の利点・欠点を踏まえ、ポスト・コロナ期における新たな学びの在り方について各所で議論されている。

さて、大阪大学では、2019年度から春学期開講の1年生向けの必修科目として、「情報社会基礎」「情報科学基礎」という一般情報教育科目を開講している。本会が策定した一般情報処理教育の知識体系（GEBOK）を参考に、学部共通の学習項目を設定し、Society 5.0時代に向けた一般情報教育として授業内容を一新した。本授業の特徴は、週に2コマ、同期型授業と非同期型授業で構成するブレンド型授業として開講している点である。時間や場所を気にせず受講生のペースで繰り返し学べるよう、非同期型授業回では講義動画やクイズを中心としたオンラインでの知識習得型授業を行い、同期型授業回では講義動画の理解を深めるための演習を対面で行っている。特に、情報学を専攻していない受講生も情報システムの仕組みを体験的に学べるよう設計している。

図らずも、2019年度から対面授業とオンライン授業によるブレンド型授業として開講した本授業であるが、2020年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止対策のため、全授業回がオンライン授業として開講されることとなった。対面授業での開講を想定していた同期型授業回をすべてオンライン化することとなったが、2019年度の受講生のフィードバックを元に、講義動画や演習の改善を行ったこともあり、受講生の評価は2019年度よりも高いものとなった。

本コラムが公開される頃には、各教育機関において新年度の授業準備が開始されつつあると思われるが、2020年度の取り組みにより、先生方には貴重な教育資源や知見が蓄積されていると考えられる。もちろん、これらの教育資源をそのまま活用できるわけではないが、有用な教材・知見を教員間で共有したり、学習データを元に教材を改善したりすることで、対面・遠隔といった授業の開講形態によらず、教育の質の向上が期待できる。新学習指導要領の内容を踏まえ、今後も継続して授業内容の改訂が必要となるが、本学の現時点の授業教材・演習ツールも、OER（Open Educational Resources）として公開することを予定している。日本の情報教育の在り方を考える重要なこの時期に、本会でも各教員の持つ貴重な教育資源・知見を共有しながら議論を重ねていけると幸いである。



白井詩沙香（大阪大学サイバーメディアセンター）（正会員） shirai@ime.cmc.osaka-u.ac.jp

大阪大学 サイバーメディアセンター講師。博士（情報メディア学）。ヒューマンコンピュータインタラクション、教育工学、情報科学教育に関する研究に従事。2018年度情報処理学会山下記念研究賞受賞。

LOGOTYPE DESIGN...Megumi Nakata, ILLUSTRATION&PAGE LAYOUT DESIGN...Miyu Kuno